
時の廻る（まわる）場所

紫遠 霽

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

時の廻る（まわる）場所

【Nコード】

N5091B

【作者名】

紫遠 霽

【あらすじ】

ここはどこにもない世界。ここは、時の廻る場所。人間はその存在を知らないけれど、人間達の、夢や、物語が羽を休めていくところ。時と物語を司る守人の少女は、誰もいないその場所でただひとり、黙々と仕事を続けていて――。

ここは 時の廻る場所
綺麗でキラキラした処でしょ？
金平糖の星屑で 色とりどりに飾られた
ここは 時の廻る場所

——ココハ、トキノマワルバシヨ
オヒメサマヒトリ、オリマシタ——

ふと、少女は目を覚ました。
目の前にあるのはいつもと同じ風景。
でも決して、ふつうではない風景。
少女はのびをして体を起こす。
布団と枕の替わりになってくれたのは、大きなフクロウ。
彼女は、そのフクロウの背をひとなでして少しほほえんだ。

ここは 夢の集う場所
過去も未来も 現在までも
無限に続く回廊を 色とりどりに照らし出す
ここは 夢の集う場所

——オヒメサマ、イツモヒトリキリ
トキノハグルマ マワシテハ ユメヲクバルノガ オシゴトデ
ス——

少女は考えたことがある。

自分は何故ここにいるのかを。

何故、自分はずっと一人なのかを。

答えは出ない。

それでも、少女の脆い心に、「独り」は辛すぎた。

考えたって、答えは出ない。

考えたって、辛いだけ。

それでも考えてしまうのは、何故なの？

ここは 誰もいない城

夢や希望に 溢れてるけど

お喋り うわさ 恋話 なーんにも無いところです

ここは 誰もいない城

——友達が、欲しい——

少女が、初めて願ったことだった。

誰かと、話がしたい。

なんでもいい、嫌われたっていい。

私以外の別の人に会いたい——。

ここは 夢の叶う場所

願う力が 強かったなら

どんなささやかな願いでも たちどころに叶う場所

ここは 夢の叶う場所

——オイデ、オイデ、

オヒメサマガオマチダヨ、

ツメタイベリーノオチャイレテ、

オヒメサマガオマチダヨ——

「いったあーい：：」

陽香はつぶやいた。いったいここはどこだろう？

よく分からないうちに、しりもちまでついてしまった。

ついさっきまで、確かに通学路にいて、友達と話していたのに。

だけど、ただ文句を言っているも仕方がないので陽香は歩き出してみることにした。

周りとはとてもきれいに彩られていて、不思議な感じに包まれていた。基調となっている深い深い青の色は、どこか『時』に似ていて：：

「うわ：：超キレー：：」

陽香が壁にさわってみると、その部分が呼応するように光り輝いた。あわてて手をはなすと、すうっと元通りになる。

それがおもしろくて何度も遊んでいるうちに、

陽香は一つの扉の前にたどり着いた。

「出口：：っぽくはないよね。どこなんだろうココ」

いくら考えても分からない。

分からないけれど、元々感覚で動くほうな陽香は気にせず扉を開けることにした。

そこは一つの部屋だった。

まず目にはいるのは大きなフクロウ。

いったいどこにそんなのがいたのかと思うほどに大きい。

そして、そのツバサにくるまれて眠っている、陽香と同じくらいの

少女。

そこにそっと近寄ってみると、ふとフクロウが一声鳴いた。目を覚ました少女は、陽香を見て驚いた顔になる。

「えーと……こんにちは」

ぎこちなく陽香がいさつをすると、少女も同じように恐る恐る口を開いた。

「こんにちは」

「あの、あたしここに迷い込んだみたいなのね。それで、出口を教えてもらえないかなー……って思ってる？」

「ええ、知ってるわ」

「ホント！？ってか、ここってどこなの？」

「ここは、時が廻る場所。夢が集う場所。それだけで、名前はないの」

「よく分かんないや……でも、キレイなとこだね。あ、あたし日崎陽香。あなたはなんて言うの？」

「私も、ここと同じ。時を廻し、集う夢を管理する守人。名前は……無いわ……」

「名前、無いの！？」

突然大声を上げる陽香に少女は驚いた。

そもそも人と話すのが初めてと言うことも手伝ってか、彼女には何故陽香がそこまで驚くのが分からなかった。

「ダメだよ、そんなの！困るでしょ、呼べないじゃない！自分で考えようとか思わなかったの？」

「うん……ここ、誰もいないから、困らなかったし……」

「ずっと、ひとりだった……ってこと！？」

「ええ……」

少女が戸惑いがちに頷くと、陽香は決断したように言った。

「あたしに任せて」

「え？」

「名前考えてあげるよ。それに、今からあたしたち、友達ね！」

「友達……？」

「一度来れたんだからまた来れるでしょ？遊びに来るから！」

そう言いきってから陽香は宙を睨むような表情をする。

「うーん……せっかくだし、ぴったりの名前がいいよね？夢……、

夢、物語……千夜一夜物語っぽくない？いいかも！えっと……」

「あ、あの……」

「決めた！」

少女が思いきって声を掛けるのと、陽香が声を上げるのがほぼ同時だった。

「ライラ、ってどう？」

「ラ、イラ……？」

「そう！千夜一夜物語のこと、アルフ・ライラ・ワ・ライラって言うの。その中のライラは、『夜』って意味なんだ！」

「夜……」

「……あ、もしかして、迷惑だった？」

「え？」

「あたし、よくやっちゃうんだよね……。知らず知らずのうちにやりすぎちゃって、自分ではそんなつもりないんだけどみんなに迷惑かけちゃったりさ。だから、迷惑だったらそう言って？」

迷惑かけるのはいやだから。その言葉、その感情は、今までの少女の中にない類のものだった。

思わず、少女はわずかに笑みを浮かべる。

「ううん、そんなこと無い。嬉しかった……ね、また遊びに来てね。待ってる……」

「ほんと？」

「うん……帰る時は、目を閉じて元いた場所を思い浮かべればいいわ。ここに来る時もそう。だから、忘れないで……この場所のこと。私はここからでられないから……」

「ありがと、ライラ。ゼーったいわすれない。また来るね。ばいばいライラ！」

「うん、陽香……じゃあ、ね」
楽しそうに手を振った陽香は、次の瞬間にはもう見えなくなっていた。

それでも、少女は……いや。ライラは、満足げな笑みを浮かべていた。

初めて、友達が出来た。しかも名前まで付けてもらって。

そう。名前。

ライラ……私の名前、ライラ。

ここは 時の廻る場所

綺麗でキラキラした処でしょ？

金平糖の星屑で 色とりどりに飾られた

ここは 時の廻る場所

ここは ライラのいるお城

明日もきつと また会える

初めて出来た友達は 笑顔の可愛い女の子

ここは ライラのいるお城

——次はいつ、会えるのかなっ？

(後書き)

後書きという名の逃げ道。

ぐちゃぐちゃで読みづらいですね……；

このお城関係の話はほかにも考えているのですが、
果たしてどうなる事やら……。

ここまで読んでくれた方、

本当にありがとうございます。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n5091b/>

時の廻る（まわる）場所

2010年10月9日22時02分発行